

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570102899		
法人名	有限会社ライフサービス宮崎		
事業所名	グループホームだんらん		
所在地	宮崎市大島町国草136-3		
自己評価作成日	平成25年11月9日	評価結果市町村受理日	平成26年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kanistrue&jisyosyoCd=4570102899-00&PrefCd=45&VersignCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

週1回の音楽療法と月2回の理学療法士による機能訓練で、現状維持できるように力を入れています。認知症の穏やかな進行対策として、ボランティアの方々に来ていただき、利用者に対する余暇活動や社会参加を促している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者は、運営理念の見直しや運営推進会議の改善、食事の支援、日常的な外出支援など、さまざまな課題について職員と一緒に積極的に改善に取り組み成果を上げている。特に地域との関係強化のために、地域の人々を招いて運営者自らアロマリンパマッサージを行ったり、理学療法士による機能訓練や音楽療法、舞踊等、多くのボランティアの受け入れを行い地域との交流を深めている。また、職員全員で話し合い作成した理念を全員が共有し、笑顔で温もりのあるケアを日々実践している。利用者は、職員の温かいケアに支えられ、全員表情が明るく元気に暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームだんらんの理念をスタッフ全員で共有し、介護に当たっている。	運営者を含め職員全員で話し合い、これまでの理念を見直し、全員が共有して、笑顔と温もりのあるケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議の方・余暇活動のボランティアの方々・アロマボランティアマッサージの来客・宣教師さん・見学者等、地域の方々が日常的に入りやすいような雰囲気作りをしている。自治会にも加入して、回覧板持参では、会話もできている。	地域の人々を招いて、運営者自らがアロマリンパマッサージを行ったり、地域のコーラスグループをはじめ多くのボランティアを受け入れるなど、地域との交流を深めている。見学に来訪する地域住民が多くなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの「妻を介護している」また、「将来の母の為」などの理由で見学に来ていただいている。その時に、スタッフの関わり方が参考になったと言われ、見学者の来訪は、何時でも受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの実際・利用者匿名での現況報告を行い、意見や助言を感謝してサービスに活かしている。	運営推進会議では、夏祭りについてのアドバイスや玄関の施錠の問題等についての意見や助言があり、そこでの意見をサービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課・介護長寿課・社会福祉協議会・社会福祉課に足を運んだり、電話をして解からない事は聞く、また、指導をして頂いている。	市の担当者とは、運営上の課題や事務取扱い等について、いつでも相談や指導を受ける関係を築いている。また、市が開催する研修会等には積極的に参加して協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望が強く、出て行こうとする利用者がある為、玄関の施錠が現在は必要である。身体・生命の危険に及ばない範囲で、拘束のケアに取り組んでいる。	運営者および職員は、身体拘束に関する勉強会をホーム内で定期的に行い、その弊害を学び理解に努めている。ただ、帰宅願望が強い利用者がいて、家族の要望もあり、現在のところ玄関の施錠をしている。	利用者の人権を守ることがケアの基本であることを全職員が理解し、利用者の思いや外出の傾向をつかみ、見守りを重視した取組で、鍵をかけない自由な暮らしの支援を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起きないように、高齢者虐待防止法関連の冊子を休憩室で見られるように9月に置いていた。また、認知症の方の心理についても勉強会を行い、管理者は、スタッフのストレスも理解に勤め、虐待が起きない環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症について、記録等の勉強会は、行っている。日常生活自立支援事業や成年後見制度については、まだ個人学習に頼っており、今後計画に入れていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問に耳を傾け、説明を行い、この後更に聞きたい事があれば、聞いて頂いて理解・納得が行くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、家族にも案内・参加して頂き意見を聞いて、サービスに反映するように心掛けている。この他、家族の面会の機会にケアの要望は言っており、運営に役立てている。	家族の来訪時や夏祭り等の行事開催時に、家族を交えて意見や要望を聞く機会を設けている。また、第三者委員からの情報も参考にして運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議にスタッフも参加し、意見を得、運営に反映するように努めている。	毎日のミーティングや月2回の研修をかねた職員会議で、職員の提案や意見を聞く機会を設けている。会議では多くの意見や提案があり、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員、個々への声掛けをし、勤務状態の不満はないか聞いて、経営の全体運営に照らし合わせ改善の必要性等を考慮し、できる所は改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、月1回以上の研修を行い、外部研修も確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の講習会に積極的に参加すると共に、近隣の同業者とも施設内で交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	プランを作る前に、本人にケアについての希望を聞くようにし、普段にも個々のホームでの充実した生活に配慮し、安心な生活をして頂くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で家族に面談し、家族が困っていること、不安なこと、要望等を聞き、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人と家族に話をよく聞き、その時に今一番必要なサービス利用等を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様を一つの家族という考えで、一緒に笑ったり、作業にも努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族様と必要時には、電話でコミュニケーションに努め、来訪時に半日居られる家族もおられるので、共に笑い悩みは聞いたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事を行う際に、家族や親戚の方々に声を掛け参加して頂いている。ホームへの面会も多く来て頂いている。	なじみの関係が途切れないように、家族の協力を得て、知人や友人の訪問を呼びかけている。買い物や墓参りに出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂で、利用者全員で食事をし、利用者同士話もしている。余暇活動では、居間のソファにて利用者が集まり、歌を唄ったり、リハビリ体操やゲーム等を行う事で、利用者同士の関わり合い、支えあえるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した利用者様のご家族との交流も大切にしている。必要な書類の送付には、手書きの手紙を添えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずは本人やご家族に希望や意向を直接聞く・遠い家族には電話で聞くことをし、困難な場合は、本人本位に検討している。	本人と家族を交えた話し合いの中から、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。また、日々の行動や表情の中から真意をくみ取る工夫もしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所頂く時に、ご自宅を訪問し、生活環境や馴染みの暮らし方・生活歴等を聞き、サービス利用の経過等については、本人・ご家族、以前のケアマネ等に聞き情報。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス実施評価表、個別生活記録・日誌・申し送り・日々の関わりの中で現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族・スタッフと話し合い、また、知人・医療関係者から意見やアイデアを聴いている。	本人や家族の意向をとり入れ、職員や関係者のアイデアを反映した利用者本位の介護計画を作成している。また、毎月モニタリングを行い、見直しは状況に応じて随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別生活記録を基に、申し送り、スタッフ会議等で意見交換を行い情報を共有し、日々のケアやプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの利用者とは日々接する中、個別のニーズ・状況の変化の把握に努め、その都度家族や関係者と連携をとり、柔軟な支援をしている。		

宮崎県宮崎市 グループホームだんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週月曜は、ボランティア音楽療法また、月1・2回のボランティア活動(踊り・手品等)・家族、知人の来訪、第3委員の来訪を受け交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は馴染みのかかりつけ医師に相談・また、定期的に来て頂き、状況により本人や家族の希望する医師による受診を受けている。	利用者や家族が希望する医療機関で受診できるよう支援している。掛かりつけ医の往診もあり、良好な関係が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、職場のケアマネに日常の関わりの中で捕らえた情報や気づきを伝え、ケアマネからかかりつけ医に伝え・相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、面会や家族との連携を欠かさないようにし、早期退院に向け病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で出来ることを十分に説明しながら方針を共有し、支援に取り組んでいる。終末期については、家族と医療機関と十分に連携をとり、支援していきたい。	重度化した場合の対応については、本人や家族と話し合い、ホームで出来る範囲のことについて説明している。ただ、職員や医師を含めた関係者間の方針についての共有はまだ充分とは言えない。	本人や家族の意向を踏まえ、職員、医師、関係者が方針を共有して連携を図り、随時意思を確認しながら支援していくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、目に付く所に掲示している。応急手当てや初期対応については、ある程度は認識は職員は出来ているが、訓練を今後していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、災害を身近に感じるようにしている。地域の方々と防災訓練を行い、救援活動のお願いをしている。	地域住民や運営推進会議のメンバーの参加を得て、防災避難訓練を実施している。また、地震や津波を想定した避難場所の協力を近くの医院に依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議で、認知症の心理・介護の仕方等の勉強会を行い、利用者の人格が大切にされるよう、また、言葉掛けについても会議の中で共有し、気をつけるようにしている。	毎月職員会議で、接遇についての勉強会を行い、本人を尊重した呼び方やプライバシーを損ねるような言葉かけや対応がないよう細心の配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者は、日常生活の中で思いや希望を表したり、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとり、本人のペースに沿って、日々を過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族に慣れた物・好みの物を持参して頂く、また、購入して頂くようにしている。外出時には、自己所有の物から本人に選んで貰い、おしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の中では、食器洗い・お盆拭き等をして頂き、旬のものが出ると梅漬け手伝い・ふき剥き手伝い等、手伝って頂いている。好みについては、利用者個人の苦手な物については、冷蔵庫に張り職員が配慮している。	旬の食材をとり入れ、利用者の好みに配慮したメニューとなっている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるようにしている。後片づけを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事作りでは、栄養バランスが良いようにスタッフが考慮して行っている。食事量・水分量が1日の中で確保できるように、記録をして必要量が取れるように対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔ケアを行っている。自立度合いによって、本人にも口腔ケアを行って貰っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録にて把握しトイレ誘導をしている。立位が困難になってきている利用者についても尿意・便意を考慮しトイレ誘導に努めている。	排せつチェック表を活用して、利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し、その日の体調を考慮しながらできるだけトイレで排せつできるよう、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	活動の機会を多くしている。乳製品や繊維質の多い食材を取り入れ、便秘の予防に気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スケジュールの中で入浴を支援しているが、本人の希望にて日を変える・体調によって入浴日の変更も考慮している。	利用者の体調や希望に沿って入浴が楽しめるよう柔軟に支援している。入浴を拒む人には日時を変更したり、タイミングを見計らって声掛けをするなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムや要望を尊重し、休息できるように支援している。室温や照明の調節、水分補給にも配慮し、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用や変更を常時確認し、薬を正しく提供するように支援している。症状の緩和を目指し、主治医と連携を取り、適切な服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意とする楽器の演奏、歌など得意とする所は、積極的に支援している。嗜好品の好みにも配慮している。楽しみごと・気分転換に関しては、会話も明るいものにし、また、ボランティアの方々に来て貰い、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所の散歩に出たり、希望があれば買い物等の支援をしている。家族と一緒に食事や希望の病院等に行っている。	家族の協力を得て、できるだけ日常的に外出ができるよう支援している。福祉バスを利用して、花見やドライブ、外食等に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じて買い物を一時的に会社が立て替えて、行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を掛けて貰っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・居間・通路は、季節を感じられる飾り付け、空間は癒し系の音楽をかけ、居心地良く過ごせるように努めている。	共用の空間は、採光や温室、換気等に配慮が行き届いている。畳敷きのスペースにはソファが置かれ、玄関には季節の花が飾られるなど、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ピアノを置いて自由に触れる、通路やピアノの部屋に2・3ヶの椅子を置いている。ソファで寝そべったり、利用者同士の会話をしている姿も見られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族に生活歴や馴染みの物を居室に飾ったり、置いて貰っている。	家族と相談しながら、本人が希望する使い慣れた家具や写真、日用品等を持ち込み、安心して居心地よく生活できるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には表札を表示。トイレ・浴室・洗面等の共同の場所もわかり易く表示し、迷わず行く事が出来るようにしている。		